

従来施工から情報化施工へ

MGによる河道浚渫

従来施工

丁張りが設置できない、潮位や方角を確認し、アームの目印を頼りに掘削



水中部は黒く濁り不可視、オペレータの技量、経験に依存

情報化施工

設計図を現場に再現

- モニターに水中のバケット位置を表示
- 施工箇所の掘削記録も表示



潮位や方角等、周囲を気にせず作業に集中出来る

勘頼みから確実な施工へ、空堀や余堀を減少出来る